



2024年9月19日

各位

株式会社オールアバウト
代表取締役社長 江幡 哲也
(コード番号：2454 東証スタンダード)
問い合わせ先 取締役 森田 恭弘
電話 03-6362-1300

2025年3月期第1四半期決算に関する質疑応答（要旨）

2025年3月期第1四半期決算発表（2024年8月8日）後に、株主・投資家の皆さまからいただいた主なお問い合わせやご質問とその回答について、下記の通り開示いたします。

なお、回答内容については時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります、直近の回答内容を最新の当社方針としております。

Q1： 第1四半期は減収減益となったが、どう評価しているか？

A1： 各事業で細かく見れば課題はあるが、全般的には概ね想定通りに進捗したと考えている。売上高については、計画に対して若干届かなかったが、営業利益で見ると計画よりも若干上振れでの着地となった。足元についても、期初想定に対して大きく乖離することなく進捗しており、5月10日に開示した上期の業績予想を達成すべく、引き続き各事業の取り組みを着実に進める方針。

Q2： 2025年3月期第1四半期 決算説明資料の16ページについて、セッション数と広告単価の動向は？

A2： 検索エンジンのアルゴリズム変更等を含め様々な要因があり、今年3月以降セッション数は減少基調での推移となっている。当第1四半期においても同様の傾向が続いており、足元でも弱含みの状況。
一方広告単価については、調整局面にあるとの認識は変わらないが、その中でも金融ジャンルなどの高単価コンテンツへの注力等もあり、前年同期比では改善傾向となっている。
セッション数については、短期的には今回のような動きもあり得るが、基本的には優良コンテンツが評価される傾向は変わらないと考えているので、引き続き高単価コンテンツの強化等によりセッション数と広告単価の回復を図る方針。

Q3： コンシューマサービスが減収となった背景は？

A3： 昨年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の5類へと移行され、その後リアル回帰が急速に進んだものの、前期の第1四半期においては一部コロナ禍における特需が残っていたこともあり、当第1四半期はそれに対する反動減の影響を受けた。また、当第1四半期においては天候不順により、さくらんぼなど一部青果物の取り扱いでもマイナス影響が出ており、これらの要因を含めて、売上高の減収につながった。

Q4： サンプル百貨店の調達環境は改善しているのか？

A4： コロナ禍にあった各種規制の緩和を背景にしたリアルと e コマースにおける在庫バランス変動もあり、サンプル百貨店で提供するお試し商品の在庫調達が思うように進まない状況が続いていたが、そのような環境も底を打ち、徐々に e コマース領域にも商品が戻りつつある状況。かかる認識のもと、当第 1 四半期は概ね想定通りの推移となった。8 月以降の猛暑や台風などの自然災害等による商品の不足や配送の遅れが懸念されるが、これらの影響については現在精査中であり、具体的な内容は第 2 四半期決算で説明できればと考えている。

以上

- ・ 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき当社が判断したものであり、マクロ環境や業界動向等により変動することがございます。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- ・ これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- ・ 投資判断を行う際は、必ず当社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。

株式会社オールアバウト

🖥️ 企業サイト <https://corp.allabout.co.jp>

🖥️ IR 情報 <https://corp.allabout.co.jp/ir/>

📺 2025 年 3 月期第 1 四半期決算説明動画は [こちら](#)

📄 2025 年 3 月期第 1 四半期決算説明の書き起こしは [こちら](#)

IR 情報 ▶

